令和７年度第２回国際医療福祉大学成田病院
医療安全監査委員会 監査結果報告書

国際医療福祉大学成田病院医療安全監査委員会規程に基づき、監査を実施しましたので、以下のとおり報告します。

１．監 査 の 方 法

国際医療福祉大学成田病院の医療安全管理に係る体制及び業務の状況等について、病院長及び関係職員からの説明聴取及び資料閲覧により監査を行った。

２．監 査 実 施 日

令和８年３月 11 日（水）

３．監査実施事項

（１）医療安全管理報告について（中間評価[4～9 月]）

１）医療安全管理委員会
２）医療安全管理部門
３）高難度新規医療技術担当室
４）医薬品安全管理
５）医療機器安全管理
６）医療放射線安全管理

（２）感染管理体制及び取り組みについて（中間評価[4～9 月]）

１）前回の監査指摘事項からの取り組み
２）令和７年度活動報告

４．監 査 の 結 果

医療安全管理について

〇前回の指摘事項の改善状況

ハートコールの体制とそれに代わる体制の立ち上げについて進捗状況の確認を行い、前回以降の取組みが当初の予定よりも遅れていること、またその原因は、関係する循環器内科と救急科の年度末の人事異動の影響が大きかった旨の説明を受け、継続して安定的な診療体制の確保とハートコール体制の整備を行っていくことを確認した。

（1）医療安全管理報告について

1）会議体整理については、カンファレンスを実施後、各部門への周知方法に関する質問に対し、職員へのフィードバックは、全職員へ向けてメールを送っており、漏れのない運用を行っている旨を確認した。

2）死亡事例報告フォーマットの簡略化については、研修医へインシデントレポートのレベル0はインシデントを未然に防ぐために重要であり、その重要性をどのように訴求しているかの質問に対し、研修医への訴求は今後の課題とする旨を確認した。

3）セミナー開催に関する改善については、研修医に責任感を持たせるためにもセミナーは重要であるが、医師の年代別の回答分析についての質問に対し、分析はおこなっていないため今後の課題とする旨を確認した。

また、医療安全セミナーのアンケート結果は、「ポジティブな意見」が大半を占めたが、自由記載欄や「どちらでもない意見」にネガティブな意見や重要な指摘が散見されたため、ポジティブな意見が多いことに楽観せず、ネガティブな意見にも耳を傾けて改善していくべきとの指摘を行った。

さらに、非常勤医師への対応状況は、実際に受講した方を受講者として計上していること、またセミナー案内はメールで配信しているため、非常勤医師のメールアドレスを取得する必要があるが、アドレスの取得や管理についての病院およびグループ全体の運用ルールの策定がなく、課題となっている旨を確認した。

4）インシデントレポート検討会の定例化とデータベース化については、クオリティコントロールは誰が実施しているかとの質問に対し、医療安全管理部門は山口医療安全管理部長が実施している旨を確認した。

5）レベル3b以上事例の報告フローについては、「重要症例検討カンファレンス」を立ち上げたとのことだが、当該カンファレンスの具体的な内容や参加職種についての質問に対し、不測の事態が生じた場合やその恐れがある場合に診療科部長から病院長への申し出によって開催され、事案に関連する各部門の職種が参加する仕組みとなっている旨を確認した。

6）未承認新規医薬品等の管理状況については、既承認医薬品の適応外使用申請のフローはどのようになっているかの質問に対し、臨床倫理委員会で意見を出し、未承認新規医薬品担当室会議で決定し、医療安全管理部へ報告後に承認となる旨を確認した。

7）医薬品安全管理ラウンドについては、それぞれの部門で自部門のインシデントを共有や分析する体制についての質問に対し、各部門のリスクマネージャーと部門長が把握できるようになっている旨を確認した。

また、ラウンドは高リスクの医薬品のみかの質問に対し、高リスクの医薬品のみではなく、インシデントレポートの中で重要と思われるものをラウンド対象としている旨を確認した。

さらに、他部門へのフィードバックは実施しているのかの質問に対し、各部門に配備してい

るリスクマネージャーから実施している旨を確認した。

８）医療機器管理システムの構築については、電子カルテとの連携のスケジュールは決まっているのかの質問に対し、未決定のため来年度中に策定予定である旨を確認した。

９）X 線撮影室に於ける写損率低減への取り組みについては、写損率低減への取り組みについて高く評価した。

感染管理について

〇前回の指摘事項の改善状況

MRSA 等の耐性菌発生状況については、診療科別・病棟別で把握することが望ましいのではという指摘について、診療科別・病棟別の把握を行い、その可視化を図ったことにより、感染予防の取組みの参考とした。

（２）感染管理報告について

１）院内感染対策講習会の報告と手指衛生・PPE 着脱トレーニングの実施状況の報告については、セミナーの受講状況の質問に対し、若手医師の受講率は高くなっている旨を確認した。

２）耐性菌の発生状況の把握とその報告・各種耐性菌の診療科別・病棟別の発生状況の報告については、別紙資料「診療科別 MRSA 発生状況」について、脳神経内科の件数が多い要因についての質問に対し、カテーテルによる感染が多いことが要因である旨を確認した。

３）針刺し・粘膜曝露についての再教育については、針刺しなどは職種や経験年数などに偏りはあるのかの質問に対し、職種に偏りなく、シリンジのリキャップ時に発生するケースが散見される旨を確認した。

４）教育（セミナーのスケジュール・講義内容を報告）については、セミナーのアンケートを行い、反響を確認する試みを検討していただきたい旨の提案をした。

５）周術期抗菌薬適正使用支援状況については、周術期抗菌薬の術前投与は適正に行われているかの質問に対し、対象となる患者には適正に行われている旨を確認した。

以　上

令和８年８月６日

国際医療福祉大学成田病院医療安全監査委員会

委員長　横手 幸太郎